

# Beans Phoenix No.2

【JA福井県産大豆の復活とさらなる飛躍を目指して】

昨年より大麦の刈取が3～7日遅くなったことで、大豆の播種作業は6月5日ごろからの見込みです。昨年は6月11日に梅雨入りし、大雨や長雨で発芽不良や立ち枯れの被害が出ました。昨年、湿害にあった方は、十分な排水対策を実施して、播種作業に取り組みましょう。

## 1. 圃場準備と播種作業

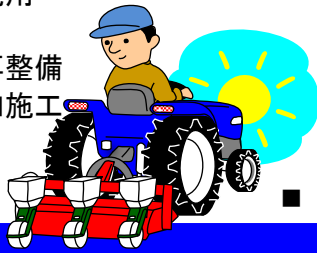
圃場準備

- 土壤改良資材の施用
- 排水対策
  - \* 既存排水溝の再整備
  - \* 排水不良は追加施工

● 播種

■ 出来るだけ圃場を乾かしてから。

大豆栽培は、一に排水、二に排水  
発芽・苗立ちの確保のため、  
排水対策を徹底しましょう。

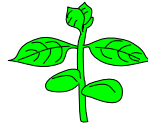


■ 播種時の土壤水分に注意。

● 排水対策

● 播種前

- 額縁から、サブソイラー施工
- 麦刈時の排水溝の崩れを直す。



● 播種後

- 播種後、排水溝の手直し、停滞水の除去。



## 2. 排水対策の徹底

令和2年度、低単収の原因No1、湿害(排水不良)  
昨年は、播種直後の大雨、長い梅雨により湿害が拡大しました。昨年の状況を思い出し、多雨を想定した対策を必ず実施しましょう。

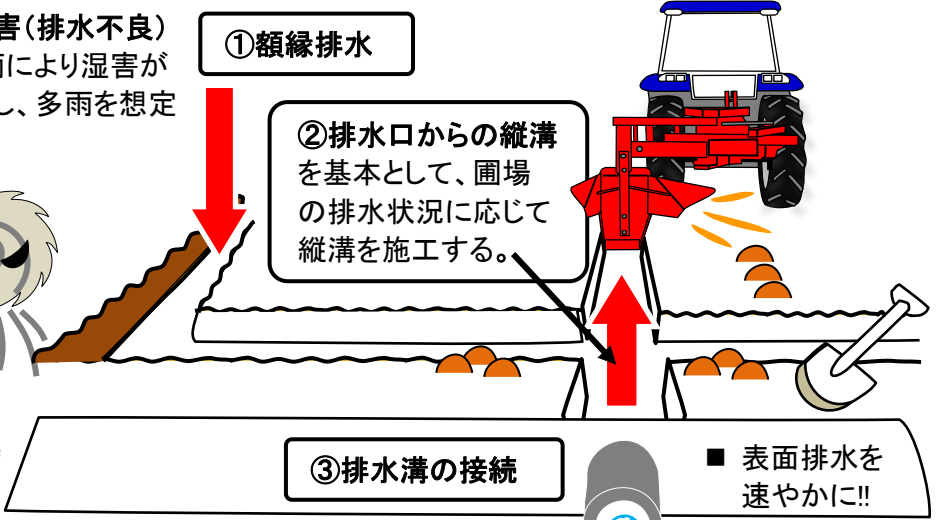
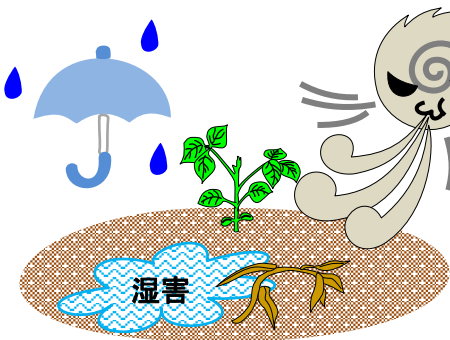
- 想定外の降雨に耐える、圃場づくり。  
ポイントは表面排水。雨水を速やかに排水させる。

①額縁排水

②排水口からの縦溝を基本として、圃場の排水状況に応じて縦溝を施工する。

③排水溝の接続

- 表面排水を速やかに!!



## 3. 播種のポイント

- 播種作業は、ゆっくり丁寧に  
行う。(播種面積は2ha/日)
- 播種量(10a当たり)
  - \* 普通(培土): 7kg~
  - \* 狭畦密植: 11kg~  
(苗立率・スリップ率: 70%)
- 目標苗立本数: 12本

『ゆっくり播種で碎土率を上げると・・・』

- 発芽・苗立ちが良くなる
- 根量が増え根粒菌が増える
- 除草剤の効果が十分に得られ
- 培土がしやすくなる

①播種後、発芽前除草剤

薬剤名	使用量
エトップ乳剤	500ccを 水100ℓに
プロールプラス乳剤	
サターパアロ粒剤	4～6kg
トレファサイト粒剤	4～6kg

